

中三 『旅への思い』 解答

㊦ おくのほそ道

問一 松尾芭蕉

問二 江戸時代

問三 深川(江戸)↓日光↓那須↓大石田↓出雲崎↓金沢↓山中↓大垣

問四 季語…枯野 季節…冬 切れ字…なし 句切れ…なし

問五 旅にあこがれる強い思い。

問六 人生そのもの。

㊦ 旅立ち

問一 永遠に旅を続ける旅人。

問二 芭蕉の庵(住まい) 同じ語…住める方、草の戸

問三 股引を繕った。笠のひもを付け替えた。三里に灸をすえた。住まいを人に譲った。

問四 季語…雛 季節…春 切れ字…ぞ 句切れ…二句切れ

問五 体言止め

問六 住む人によって家も姿が変わっていくものだという思い。

㊦ 平泉

問一 意味…一眠りのように短い時間 別…功名一時のくさむらとなる

問二 奥州藤原氏(藤原泰衡、秀衡、家衡)

問三 意味…忠義を尽くす家臣 誰…義経とともに戦った家臣たち

問四 作者…杜甫 題名…春望

問五 季語…夏草 季節…夏 切れ字…や 句切れ…初句切れ

問六 表現技法…体言止め 部分…夢の跡

問七 功名も栄華も一睡の夢にすぎないという人生のはかなさに切なくなる思い。

㊹ 立石寺

問一 人々に一度見た方がよいと勧められたこと。

問二 尾花沢と立石寺の間

問三 多くの岩が重なり合って山になっている様子。

問四 蝉の声

問五 佳景寂寞として心澄みゆくのみおぼゆ

問六 季語…蝉 季節…夏 切れ字…や 句切れ…初句切れ

問七 表現技法…比喻(隠喩)、体言止め 部分…岩にしみ入る蝉の声、蝉の声

問八 静かな場所に響き渡る蝉の声がより一層この辺りの静けさを強調しているように感じられた思い。